

主要業績一覧

立教大学社会学部
木村忠正
2018年8月現在

著書（単著）

書名（頁数）	発行年月	発行
ハイブリッド・エスノグラフィー	2018年8月	新曜社
デジタルネイティブの時代—なぜメールをせずに「つぶやく」のか— (256頁)	2012年11月	平凡社
The Digital Divide as Cultural Practice: A Cognitive Anthropological Exploration of Japan as an 'Information Society.' (Ph.D. Dissertation, Dept. of Anthropology, State University of N.Y. at Buffalo) (xxxiv+438頁)	2010年6月	State University of N.Y. at Buffalo
ネットワーク・リアリティ～ポスト高度消費社会を読み解く～ (240頁)	2004年3月	岩波書店
デジタルデバイドとは何か～コンセンサス・コミュニティをめざして～ (270頁)	2001年1月	岩波書店
オンライン教育の政治経済学 (286頁)	2000年4月	NTT出版
第二世代インターネットの情報戦略 (312頁)	1997年10月	NTT出版

著書（共著）

書名（编者、共著者など） 執筆部分（タイトル、頁数など）	発行年月	発行
ネットワーク時代の合意形成（土屋大洋との共著） はじめに、1、2、7、8各章(1-94、213-289頁)	1998年12月	NTT出版

章・項目分担執筆

書名（编者、共著者など） 執筆部分（タイトル、頁数など）	発行年月	発行
『アメリカ文化事典』（アメリカ学会編） 「SNS: Social Networking Services」500-501頁	2018年1月	丸善出版
『日本人の情報行動2015』（橋元良明編） 第3章「ソーシャルメディアと動画サイトの利用」143～179頁	2016年8月	東京大学出版会
『世界民族百科事典』（国立民族学博物館編） 「マスメディア」394-395頁、「インターネット」396-397頁	2014年7月	丸善出版
『MIT認知科学大事典』（Robert A.Wilson、Frank C.Keil編（中島秀之監訳）） 文化的変異（Cultural Variation）文化的合意理論（Cultural Consensus Theory）、生態学的妥当性（Ecological Validity）経済学と認知科学（Economics and Cognitive Science）、言語とコミュニケーション（Language and Communication）、言語と文化（Language and Culture）、言語相対性仮説（Linguistic Relativity Hypothesis）、合理的選択理論（Rational Choice Theory）の8項目	2012年11月	共立出版
国立民族学博物館調査報告 No.106『情報化時代のローカル・コミュニティ—ICTを活用した地域ネットワークの構築』（杉本星子編） 第2章「『コミュニティネットワーク』への欲望を解体する」pp.41-60	2012年8月	国立民族学博物館
『高校生のための東大授業ライブ—ガクモンの宇宙』（東京大学教養学部編） 第14講「情報ネットワーク社会としての日本社会—デジタルネイティブの現在」pp.240-255	2012年4月	東京大学出版会

“Digital Pioneers:Cultural drivers of future media culture.”(Sonja Kangas ed.) ‘Lack of dynamics between online and offline activities among the Japanese: How culture constitutes cyberspace.’ With Yoshitaka Saito, pp.40-63.	2011年10月	Nuorisotutkimus verkosto (Finnish Youth Research Network)
『文化人類学事典』（日本文化人類学会編） 「サイバースペース」 pp.696-699、「ヴァーチャル・エスノグラフィー」 pp.700-701	2009年1月	丸善
『ウィキページ革命～そこで何が起きているのか～』（ピエール・グルデン (Pierre Gourdain) 他著) 解説「ウィキペディアと日本社会—集合知、あるいは新自由主義の文化的論理」 118～158 頁	2008年7月	岩波書店
『第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書』(内閣府編) 第3部・第3章「青少年におけるネットワークトラブルリスクからみる情報化社会の進展と課題」221～235 頁	2007年12月	内閣府
『クリエイティブ・シティ:新コンテンツ産業の創出』(原田泉編著、C&C 振興財団監修) 第4章「ボローニャ～市民社会としての情報ネットワーク社会という視点～」、115-136 頁 第5章「バルセロナ～ネットワーク創造社会へ～」、137-151 頁	2007年2月	NTT 出版
"Vaurauden Lapset: Näkökulmia japanilaiseen ja suomalaiseen nykykulttuuriin."("Children of Affluence. Approaches to Japanese and Finnish Contemporary Culture"). Katja Valaskivi ed. Kimura, Tadamasa and Yoshitaka Saito 'Internetin sosiokulttuuriset ulottuvuudet: Vertailussa Suomi, Japani ja Etelä-Korea.' pp.85-109. ('Cyberspace as Socio-psychological Space: Cross-Cultural Comparison between the Finnish, Japan and Korea.')	2006年11月	Vaptapaino
『科学技術と社会—20世紀から21世紀への変容』(科学技術振興機構研究開発戦略センター編) 「情報社会とデジタルデバイド」	2006年3月	丸善プラネット
『デジタル時代の経営戦略』(早稲田大学 IT 戦略研究所編・根来龍之監修) 第12章「デジタル時代の社会経済システム」第2節「北欧型のポスト高度消費社会へ」、291-297 頁	2005年3月	メディアセレクト
『現代人類学のプラクシス』(山下晋司・福島真人編) 第4章『「情報社会」のエスノグラフィー』、69-82 頁	2005年11月	有斐閣
講座社会言語科学・第2巻・『メディア』(橋元良明編) 「情報ネットワークと日本社会」、240-263 頁	2005年5月	ひつじ書房
叢書・現代のメディアとジャーナリズム・第2巻『ネットワーク社会』(橋元良明編) 第5章「デジタルデバイドの実像」、102-133 頁	2005年10月	ミネルヴァ書房
情報社会を理解するためのキーワード・第1巻(国領二郎・奥野正寛他編) 3 情報社会の基盤、3.1「価値システム」、121-131 頁 4 情報化の影響、4.9「デジタルデバイド」、262-269 頁	2003年7月	培風館
「医者になる」とは～医学を学ぶ一人として～(早川洋編著) 第2章「医療人類学からのアプローチ」、41～81 頁	2002年12月	ゆみる出版
デジタル・デバイド～構造と課題～(C&C 振興財団編著) 第1章『「デジタル・デバイド」の比較社会文化論』、25-101 頁	2002年8月	NTT 出版
IT2001:なにが問題か(林紘一郎・牧野二郎・村井純監修) 「ネット・ガバナンスとは何か？」49-64 頁 「いまなぜドメインなのか？」65-79 頁	2000年9月	岩波書店

論文・論考（ウェブ掲載含む）			
タイトル（共著の場合は共著者名）	発行年月	発行	掲載誌名等
「ネット世論」研究から見る「ハイブリッド・エスノグラフィー」の必要性	2018年7月	日本マス・コミュニケーション学会	『マス・コミュニケーション研究』93号、43-60頁
「CMCのエスノグラフィー方法論からみた説明体系における「対称性」の拡張」（特集「越境する・社会・学」）	2018年4月	日本学術協力財団	『学術の動向』23(4), pp.24-30
情報行動と社会意識に関する国際比較—「日本人の情報行動調査」プロジェクトにおける日中韓星米5ヵ国オンライン調査（北村智、橋元良明、木村忠正、是永論、辻大介、森康俊、小笠原盛浩、河井大介）	2018年3月	東京大学大学院情報学環	『情報学研究 調査研究編』第34巻、119-211ページ
「ネット世論」で保守に叩かれる理由—実証的調査データから	2017年12月	中央公論新社	『中央公論』132(1), 134-141頁
Seeking the True State of Online Opinion.	2017年8月	Nippon.com	<i>Currents, nippon.com</i> https://www.nippon.com/en/currents/d00334/
The Internet, Media, and Public Opinion in Japan	2017年7月	Nippon.com	<i>Currents, nippon.com</i> https://www.nippon.com/en/currents/d00333/
子どもとネットワーク社会	2016年7月	子どもの文化研究所	『子どもの文化』2016年7・8月号、45-51頁
定性・定量融合法（mixedmethods）にもとづく日中「デジタルネイティブ」の政治意識とネットワーク行動に関する調査研究	2016年6月	村田学術振興財団	Annual report of the Murata Science Foundation. No.30, pp.252-263
ディシプリンとアソシエーションから学会を考える	2011年11月	人工知能学会	『人工知能学会誌』第26巻第6号、602-605頁
購入動機による分類に基づくデータ通信カードのユーザ特性分析（披田野千絵、新井田統、中村元、木村忠正）	2011年5月	電子情報通信学会	『電子情報通信学会技術研究報告』第111巻第59号、37-42頁
<i>Keitai, Blog, and Kuuki-wo-yomu (Read the atmosphere): Communicative Ecology in Japanese Society</i>	2010年11月	American Anthropological Association	“Ethnographic Praxis in Industry Conference Proceedings.” Vol. 2010, Issue 1, pp.199-215, August-September 2010
IT技術と地域デモクラシーの活性化—「ICTの社会化」の推進を（特集「電子政府・自治体の行方」）	2010年5月	東京市政調査会	『都市問題』第101巻第5号、58-72頁
ヴァーチャル・エスノグラフィー—文化人類学の方法論的基礎の再構築に向けて	2009年12月	早稲田文化人類学会	『文化人類学研究』第10巻、47-76頁
「エスノグラフィーの素朴」から方法論の深化へ（野沢慎司、林美里、余語琢磨、三浦敦との共著）	2009年12月	早稲田文化人類学会	『文化人類学研究』第10巻、77-101頁
インターネット利用行動と一般的信頼・不確実性回避との関係（藤原正弘、木村忠正）	2009年3月	日本社会情報学会	『日本社会情報学会学会誌』第20巻第2号43-55頁
選挙時における情報行動の日韓比較：日本参議院議員選挙と韓国大統領選挙におけるメディア利用と投票行動の関連（橋元良明、石井健一、木村忠正、金相美、小笠原盛浩、金仁培）	2009年3月	東京大学大学院情報学環	『情報学研究 調査研究編』第25巻、73-122頁
Socio-Cultural Differences in the Use of Personal Web Homepage and Electronic Communities among Japanese, Finnish, and Korean Youth (with Yoshitaka Saito)	2008年5月	日本社会情報学会 (JASI-JSIS)	"Journal of Social Informatics" Vol. 1, No.1, pp. 137-146.

Cyberspace as Socio-psychological Space: Cross-Cultural Comparison among the Japanese, Koreans and Finns.	2008年5月	日本社会情報学会 (JASIS-JSIS)	"Journal of Social Informatics" Vol. 1, No.1, pp.57-70.
新聞記事にみるインターネット・イメージの日韓中比較(橋元良明、石崎雅人、小笠原盛浩、木村忠正、石井健一、金相美、金仁培)	2008年4月	東京大学大学院情報学環	『情報学研究 調査研究編』第24巻、49-77頁
ネット利用とオンライン・コミュニティの日韓比較(橋元良明、金相美、石井健一、小笠原盛浩、木村忠正、金仁培)	2008年4月	東京大学大学院情報学環	『情報学研究 調査研究編』第24巻、1-47頁
「病気になる」ことの認知人類学	2006年12月	早稲田大学文化人類学会	『文化人類学研究』第7巻、66-96頁
「間メディア性」本格化の年	2005年12月	総合研究開発機構 (NIRA)	『NIRA 政策研究』第18巻第12号、23-31頁
大学生初期利用者に見る SNS (Social Networking Service) と対人信頼感	2005年9月	日本社会情報学会	『日本社会情報学会学会誌』第17巻第2号、23-31頁
デジタルデバイドと日本社会	2005年6月	NHK 放送協会放送文化研究所	『放送メディア研究』第3号、9-56頁
インターネット利用者におけるホームページ所有の規定要因：日韓フィンランド3カ国比較分析(斎藤嘉孝との共著)	2005年5月	情報通信学会	『情報通信学会誌』第23巻第1号45-52頁
ネットワーク・リアリティーポスト高度消費社会としての情報ネットワーク社会を構想する	2004年12月	総合研究開発機構 (NIRA)	『NIRA 政策研究』第17巻第12号、6～26頁
情報化社会における合理的無知～デジタルデバイス意識の集団差は存在するか～(斎藤嘉孝との共著)	2004年9月	日本社会情報学会	『日本社会情報学会学会誌』第16巻第2号、45～58頁
パネル調査によるインターネットの利用の影響分析(橋元良明、辻大介、石井健一、金相美との共著) (担当箇所：4. 「リテラシーと信頼」358-388頁)	2004年3月	東京大学社会情報研究所	『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』第21巻、305-454頁
インターネット利用に関する日韓大学生比較調査：インターネット・コミュニティを中心として(橋元良明、辻大介、石井健一、金相美との共著) (担当箇所：2. 「大学生のインターネット利用」2.1 「情報通信機器の保有」から2.5 「パソコンでのメール利用」228-270頁)	2003年10月	東京大学社会情報研究所	『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』第20巻、205-345頁
「インターネット・パラドクス」の検証：インターネットが精神的健康・社会的ネットワーク形成に及ぼす影響(橋元良明、辻大介、石井健一、金相美との共著) (担当箇所：4. 「リテラシーと信頼」396-446頁)	2002年10月	東京大学社会情報研究所	『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』第18巻、335-485頁
第三の産業分水嶺としての『デジタル・デバイス』～PACS (ポスト高度消費社会) をいかに構想するか～	2001年11月	情報通信学会	『情報通信学会誌』第19巻第1号、15-39頁
インターネットとiモード系携帯電話の狭間	2001年9月	明治書院	『日本語学』第20巻第10号54-71頁

「次の10件」に気づかない学生たち～メディアの文法とネットワークへの受動的意識構造～	1998年9月	明治書院	『日本語学』、第17巻第11号、188-203頁
体温の民族誌	1998年5月	相川書店	『文化とところ』、第2巻第3号、34-54頁
電子メールを媒介とした社会的行為空間	1996年11月	明治書院	『日本語学』、第15巻第12号、12-26頁

受賞・表彰等

2009年度(2009年9月)	日本社会情報学会・優秀論文賞
2001年度(2002年3月)	電気通信普及財団・第17回テレコム社会科学賞
2001年度(2001年9月)	日本社会情報学会・優秀文献賞

国際会議発表

年・月・日	発表タイトル(共同発表の場合には共同発表者名)	会議名	場所
2018/7/5	Overview of Internet use in Japan.	World Internet Project Annual Meeting 2018.	International House Brest City, Brest, France.
2018/7/4	Trolling, Flaming, Propagation and Development of Online Public Opinion Space in Japan.	World Internet Project Annual Meeting 2018.	International House Brest City, Brest, France.
2017/11/25	The Internet, media and public opinion in Japan.	International Research Workshop, Public Opinion, Health and Future of Communication.	College of Communication, Fu Jen Catholic University, Taiwan.
2016/12/3	Some Structures and Characteristics of Japanese Online News Space: An Analysis of "Net Yoron" (Ito, Shigeaki, Atsushi Hirasawa, Changhaeng Choi, and <u>Tadamasa Kimura</u>)	International Joint Workshop, Public Spaces and Private Lives in the Digital Age.	College of Sociology, Rikkyo University
2016/3/14	"Karamu" (Entwined) Communication: expansion of the "phygital" world among Japanese Digital Natives.	Homo Sapiens, Mortality and the Internet in Contemporary Asia.	Asia Research Institute, National University of Singapore
2015/11/28	"Karamu" (Entwined) communication: Innovation in communication among Japanese Digital Natives.	International Research Workshop, Communication and Innovation in the Digital Age.	College of Communication, Fu Jen Catholic University, Taiwan.
2013/2/4	The age of digital natives: Why do they tweet and not send mail?	Todai-Yale Lecture Series	Todai-Yale Initiative, Dept. of Anthropology and The Council on East Asian Studies, Yale University
2010/10/8	Digital divide in Japanese society from international perspective	International Conference for Celebrating 1000 Years of Thang Long – Hanoi "Sustainable Development of Hanoi Capital – Civilized and Heroic City for Peace"	International Conference Centre, Hanoi, Vietnam

2010/8/31	<i>Keitai</i> , Blog, and <i>Kuuki-wo-yomu</i> (Read the atmosphere): Communicative Ecology in Japanese Society	Ethnographic Praxis in Industry Conference	東京ミッドタウン (Tokyo Midtown)
2008/9/19	Plurality of Information Societies: Japanese Way of Informatization	Invited Speaker at Research Meeting of The Virtual Knowledge Studio.	The Virtual Knowledge Studio, Amsterdam, Netherland
2007/7/24	Plurality of Information Societies: Japanese Case.	Expert Meeting on RFID and the ubiquitous society	Royal Netherlands Embassy in Tokyo
2005/11/21	Praxis of cultural anthropology of and in information societies.	International conference on “The Use of Information Technology in the Research and Education in Social Sciences” held at the Institute for Cross-Cultural Studies.)	Seoul National University
2004/11/13	Socio-cultural differences in the use of personal web homepage and electronic communities (with Saito, Yoshitaka)	情報通信学会・情報行動研究会主催・日本フィンランド共同研究会「インターネットのある生活～フィンランドと日本の若者に関する国際比較研究～」	情報通信学会会議室